

令和3年度自己点検評価報告書

学内組織名	令和3年度の定常業務の達成度 (基準: 70%以上90%未満)	令和3年度に点検評価委員会から受けた改善の進言への対応			
教務委員会	70%以上 90%未満 (問題無く実施できた)	<p>○ハイフレックス型授業への取り組みについて、調査・点検することを進言する。</p> <p>→対応した 教務委員会がハイフレックス型授業に関する振り返りを系・領域に照会し、寄せられた意見を取りまとめた。【資料】令和4年度第5回教務委員会資料: 本科別紙1</p>	<p>○英語教育の向上を目的として、実際に部会(国際コミュニケーション能力育成部会)を機能させることを進言する。</p> <p>→対応した 同部会は、設置当時と状況が変化しており、十分機能させることが難しくなっていることから、令和4年度より廃止することとし、英語教育の向上に関する事項は、教務委員会本体で議論することとした。</p>		
専攻科	70%以上 90%未満 (問題無く実施できた)				
学生委員会	70%以上 90%未満 (問題無く実施できた)	<p>○スマホ・ケータイ安全教室(第1学年)、サイバー犯罪被害防止教室(第2学年)、インターネット被害防止教室(第3学年)について、全学生が一斉に学ぶことが望ましい。</p> <p>→対応した 資料名: R4年度の行事予定表 R4年度の行事予定においては、2、3年生のIT系講演会を統合し、一緒に実施することとしている。</p>	<p>○「部活動の削減や顧問の負担軽減」に関する検討の進捗度について、年に数回、教員会議で報告することが望ましい。</p> <p>→一部対応し、検討中の事項がある 資料名: R4年3月(第12回)教員会議資料 説明: 同好会の数を削減している、などを教員会議で報告している。</p>	<p>○学生関係の事務手続きの電子化促進を進言する。</p> <p>→一部対応し、検討中の事項がある 学生の通学届け、課外活動関係の計画書・報告書等について電子化している。</p>	<p>○学生指導支援要請の減少を踏まえた今後の部会(技術系コンテスト支援部会)のあり方について、引き続き検討を行うことを進言する。</p> <p>→対応を検討中である 説明: R4年度に向けて検討中である。</p>
寮務委員会	70%以上 90%未満 (問題無く実施できた)				
施設設備委員会	90%以上 (十分実施できた)	<p>○今後の改修で法令等の問題が懸念される事項を予め把握しておくことが望ましい。</p> <p>→対応した 学寮領域、校舎領域に分けてとくに違法建築認定を受けたもの(受けそうなもの)について設計業者による実地確認を行うとともに、予算および高専機構施設整備計画を勘案し、年次計画で撤去する計画とした(第8回施設設備委員会議事録)</p>	<p>○令和2年度に実施することが出来なかった、キャンパスマスタープラン(案)の改定作業について、最新情報を勘案し実施することを進言する。</p> <p>→一部対応し、検討中の事項がある 機械実習工場・学生食堂等の改修対応が続き、キャンパス全体の改訂案の作成に至らなかった。次年度の継続課題として取り組みたい。(資料無し)</p>		
安全衛生委員会	90%以上 (十分実施できた)	<p>○校内安全巡視の指摘事項への対応を適宜確認し、改善要請に従わない場合の具体的な対応策の検討を進言する。</p> <p>→対応した ①安全巡視報告書と合わせ、指摘をうけた部署から「安全巡視改善報告書」の提出を求めることとした。 ②また、改善状況の全体確認のため、Teams チャネルを作成し、適宜入力・更新し、3月中に各部署に、状況確認を再通知することとした。</p>	<p>○消防避難訓練について、実施要項の見直し及び担当の認識合わせを行うよう進言する。</p> <p>→十分対応した 資料無し コロナ対策の観点もあり、総務課との連携して内容を見直し・簡素化を行った。</p>		

学内組織名	令和3年度の定常業務の達成度 (基準:70%以上90%未満)	令和3年度に点検評価委員会から受けた改善の進言への対応			
広報室	90%以上(十分実施できた)	<p>○広報の重要性が今後増すことに加えて総務担当関係者の業務が過多となっていることから、専任の責任者が広報業務を所掌することが望ましい。</p> <p>→対応を検討中である 資料なし 広報業務についてはとくに中学生増募対策の観点からきわめてプライオリティの高い業務であり、また、常に新しいアイデアを投入していく必要があり、提言通り専任責任者および担当者を設けることが望ましいことは承知しているが、教員数削減等の兼ね合いで、その実現がむづかしい。 これに対しR4年度は、広報戦略室による中長期戦略策定と、それを受けた広報活動を実施することを計画しており、合わせて広報室員の主体的な提案・計画・実施を実現させていきたい。</p>	<p>○学校のWEBコンテンツで更新が滞っているページが散見されるため、最新の情報に更新して適切に情報発信することを要望する。</p> <p>→十分対応した 資料なし R3年度は積極的に学生活動などを掲載した一方で、更新不足の情報を拾い出して更新する部分の計画を立てたものの実際の更新のタイミング等は、業者窓口である総務課に事務的に任せており、結果的に更新回数が少なかったと考える。R4年度は定期的にHP更新内容を事務と打ち合わせ、更新指示をより高頻度に行う。</p>	<p>○学校Webポータルサイトから学校公式Twitterへ容易にアクセスできるような工夫が望まれる。</p> <p>→一部対応し、検討中の事項がある 資料なし 公式Twitterは主に教務係が掌握し、主に学生向けの連絡に使われているため広報活動の利用ツールとしての位置づけでは現在のところはないが、HPに公式Twitter、公式Youtubeチャンネルのリンクを作成する予定である。また、広報活動用の利用(別アカウント作成も含め)も検討することとしたい。</p>	<p>○中学生や保護者の関心度が高い事項の把握にため、増募と結びつく効果的な広報活動を行ってほしい。</p> <p>→十分対応した R3年度の入学生・保護者向けにHP、公式Youtubeチャンネルの動画の感想や入学前に知りたい情報がないアンケートをとり、増募対策としての広報活動にフィードバックしたい。 また、オンライン・オープンキャンパスのアンケートや、学校説明会・入試説明会後の学内ツアーの後に質問時間を設けて直接、意見や関心を持っていただいた事項について確認した事柄を、来年度の説明動画等の資料作成の参考にしたい。</p>
		<p>○学校広報に関して学内各部署から意見を吸い上げ、効果的な情報発信につとめてほしい。</p> <p>→対応を検討中である 運営委員会、教員会議等で随時意見募集等を行っているが、そもそも事前に意見らしい意見が出てこないのが本校の課題である(後出し意見はあるが)。教職員全体が広報室員であるような意識づくりを進めたい。</p>	<p>○オンラインオープンキャンパスの実施方法や成果を点検・評価し、その結果を学校全体で共有することを進言する。</p> <p>→対応を検討中である 実施方法や成果については事後にアンケートなどを通して評価することとしたい。また、その結果は公表することとしたい。</p>	<p>○オンライン・オープンキャンパスは今後も極めて重要であり、定期的な学校行事とすることを提案する。</p> <p>→一部対応し、検討中の事項がある オンラインでの実体験も有効であるが、オンラインでの利便性(感染症対策も含め)もあり、積極的に併用していきたい。リアルタイム配信でなくても、記録動画をオンデマンド配信にするなどの工夫も行いたい。</p>	
進路指導室	90%以上(十分実施できた)	<p>○SPI模試受験者の増加を目的とした行動について、結果の分析と次年度への改善策を進路指導室内で議論することが望ましい。</p> <p>→その他 現在、学校で申し込んでいるSPI模試については有料2000円程度で期限までに3回程度受けられるというものである。進路ガイダンスでは、学校推薦を利用する場合はかならず受験するようという指導を行っているが、会社によってはSPI以外の適性試験を受ける可能性があること、受験不要の場合もあることから強制できないと考えられる。</p>	<p>○就職・進学業務を進路指導室に一元化することを進言する。</p> <p>→対応を検討中である 学生の在学中のキャリア教育、就職・進学支援業務を一元化して進めることは、業務効率化だけでなく学生のキャリア形成に大きく役立つであろうことは認識している。現在の進路指導室は、情報集約のための組織としての位置づけが強く、マンパワー的に就職・進学業務を進路指導室に一元化して実施するには、さらにメンバーおよび事務作業員の増員が必要になる。一方で、教職員の削減に伴い、そのような増員は業務効率化を図ったとしても困難であり、学校全体での調整を待ちたい。</p>	<p>○教育研究振興会会員企業だけを対象とした企業説明会を設けるなど、地域共同テクノセンターと連携して会員企業の増加策も考えてほしい。</p> <p>→十分対応した 進路指導にあたっては、地域企業(あるいは振興会企業)からの求人であることを学生向けに示すほか、求人企業向けにも振興会の存在を周知するなどの工夫を行っている。テクノセンターとの連携については引き続き検討していく。</p>	<p>○夏季インターンシップと接続した課題解決型地域インターンシップの推進を提言する。</p> <p>→十分対応した インターンシップは教務委員会の職掌となっているが、進路指導室としても協力を進めたい。</p>
		<p>○今後学生の多様な考えに適したきめ細やかな進路指導が求められるため、業務の多い副校長(総務担当)ではなく専任の責任者が進路指導業務を所掌することが望ましい。</p> <p>→一部対応し、検討中の事項がある 専任責任者の設置が望ましいことは承知しているが、教職員の削減に伴い困難であることもあり、学校全体での調整を待ちたい。</p>			

学内組織名	令和3年度の定常業務の達成度 (基準:70%以上90%未満)	令和3年度に点検評価委員会から受けた改善の進言への対応			
地域共同テクノセンター委員会	90%以上(十分実施できた)	<p>○R3年度から副テクノセンター長は2名となっているが、業務の遂行状況や業務負担などを自己評価すること、また、さらなる業務改善について検討することを進言する。</p> <p>→十分対応したなし</p>	<p>○本校教員と福祉・医療分野や1次産業分野との連携強化を提言する。</p> <p>→十分対応した 福祉・医療分野や一次産業分野をテーマとした科研費採択、ディープラーニングコンテスト本戦出場、共同研究、特許申請など。</p>	<p>○EVアカデミーに続く今後の地域連携の柱を早急から検討することを進言する。</p> <p>→十分対応した 令和4年度先端自動車関連技術人材育成事業、令和4年度北上川パレーDX推進高度人材確保促進事業において、EVアカデミー、EVミニアカデミー、次世代トランスポートーションR&Dアカデミーを実施する。</p>	<p>○知的財産部会を地域共同テクノセンター委員会から独立させることを進言する。</p> <p>→一部対応し、検討中の事項がある R4年度第1回企画会議で審議を行う予定</p>
知的財産部会	70%以上 90%未満(問題無く実施できた)	<p>○高専機構知財コーディネータの活用について検討・議論をすることを進言する。</p> <p>→対応した 資料名等:高専機構からのメール、Teams投稿、課長補佐のTeams投稿 説明: 承継申請前に各高専の出願について個別に相談に乗ってくれるのかどうか高専機構に問い合わせた結果、「発明届提出前の相談でも受け付ける。また、共同研究等に係る契約書等の相談にも乗っていただける。担当係を通じて相談を受け付ける。」とのことでした。</p>	<p>○R1年度点検評価委員会からの改善の進言への対応について、2項目しか対応しておらず、すべての進言への対応がなされていないので、対応することを進言する。</p> <p>→一部対応し、検討中の事項がある 資料名等:R2年度自己点検評価報告書(知財部会)、R3年度教員会議資料 説明: ①人員削減はR2年度に達成している(知財部会の人員を8名から6名に削減した(教務主事、専攻科長を削減)②高専機構の承継には「企業との共同出願」や「ライセンス先」が必要で、単独出願は原則承継されないことは、既に共通認識であると思うが、R4年度に再度周知する。これをカバーするために単独出願に対して新設された「外部資金獲得に寄与する発明支援制度(周知済)」などは教員会議で毎月周知している。 ③出願件数が少ないことに対しては、第1ブロックの知財目標(年間1件の出願)を周知し、R3年度は目標を達成した。R3年度内に間に合わなかったが、現在、出願準備中の案件が数件あるので、推進できていると考える。 ④30条に関しては、適応された出願を高専機構が承継しないことは共通認識であり、卒業研究発表会や特別研究発表会では聴講者に秘密保持契約に署名させることで、回避可能。学会発表などに関しては、30条の適応になってしまいが、これは各教員の問題と考える。出願前に学会発表することのないように、教員会議等で呼び掛けることは可能。</p>		
男女共同参画推進委員会	70%以上 90%未満(問題無く実施できた)				
点検評価委員会	<p>50%以上 70%未満(実施できなかった事項がいくつかあった)</p> <p>理由:各部署からの自己点検評価報告書の収集に時間が要し、改善の進言の発出が年度末の2月となったため質の高い点検評価活動とはならなかった。また、授業アンケート回答率は、前期が71.3%であったが、後期が57.9%と著しく低い結果となった。また、アンケート結果に対してコメントを返さない教員も多かった。</p>	<p>○昨年度に引き続き、授業アンケートを活用しPDCAを機能させる方策についての検討を進言する。</p> <p>→対応を検討中である 資料名:第5回点検評価委員会会議資料 説明:授業アンケートの回答率の向上に向けてアンケート実施時期や授業アンケート結果に対するコメントを提出する教員の数を増やす方策を意見交換した。</p>	<p>○自己点検評価報告書の提出が目的となっていることが懸念される。自己点検評価報告書の目的について学内組織の長をはじめとする組織全体の意識改善方策の検討を進言する。</p> <p>→十分対応した 資料名:第3回点検評価委員会会議資料 自己点検評価報告書を簡素して要点のみを報告する形式としたため、2022年度は、1)自己点検評価報告書の質の向上、2)自己点検評価報告書の早期提出が図られることにより適切な時期に改善の進言を提出できる、など点検評価活動の質の向上が期待される。</p>	<p>○自己評価にもあるが、授業アンケートや学生自身による達成度評価の回答率向上に向けた方策の検討を進言する。(評価対応部会への進言)</p> <p>→対応を検討中である 資料名:第5回点検評価委員会会議資料 説明:科目達成度の点検について、全学生が回答し、かつ教員が科目の到達度を把握できる本質的な取り組みとするために、以前に実施していたシラバス印刷物による回答方式の復活を検討する。</p>	
図書館専門部会	70%以上 90%未満(問題無く実施できた)				
総合情報センター	70%以上 90%未満(問題無く実施できた)	<p>○各部署と適切に協調して業務を行うことを進言する。</p> <p>→十分対応した 教務委員会と連携し、BYOD検討やMoodle講習会開催などを行った。(資料はなし)</p>			
情報セキュリティ推進室	70%以上 90%未満(問題無く実施できた)				

学内組織名	令和3年度の定常業務の達成度 (基準: 70%以上90%未満)	令和3年度に点検評価委員会から受けた改善の進言への対応			
技術室	90%以上(十分実施できた)	<p>○前年度からの改善の進言への対応以外の取り組みについて、優先順位を付けて改善を進めることを要望する。</p> <p>→対応を検討中である</p>			
国際交流委員会	70%以上 90%未満(問題無く実施できた)				
サイバーセキュリティ人材育成事業推進委員会	70%以上 90%未満(問題無く実施できた)				
研究関係	90%以上(十分実施できた)	<p>○研究推進、モチベーション向上の観点から、インセンティブ制度の導入を進言する。</p> <p>→対応を検討中である インセンティブとは間接経費の採択教員への還元のことかと思うが、第3回の点検評価委員会で以下を発言した。「インセンティブを行った場合、学内予算的に可能かどうか、事務方で検討して欲しい。」</p>			